森の名手・名人シリーズ33

名人 石橋 智（41）
岐阜県飛騨市

聞き手 南 貴之
岐阜県立加茂農林高等学校二年
平成21年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、44名の「森の名手・名人」がいます。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

森林ガイド 奥飛騨に住むキノコ名人

1. 名人と行く森林キノコガイド

斜面を登るときにはな、生の笹やとぜったい抜けんけど、枯れた枝とかは簡単に抜けるで持ったらだめやぞ。これは、クリタケや！この後ろに出とるのはムキタケやな。これは幸先良いな…。

シバカブレ（シモフリシメジ）やぞ。大抵な、ナラの木周辺の地面に苔の生えたようなところに出るんやて。ここ、柄が真っ白で長いやろ。柄も美味しいから注意してとることやな。クリタケはナメコの仲間やで。木の切り株から出とるやろ。もうちょっと行くとな、杉とかカラマツの植林地があるんや。コケ（キノコ）を探すときはな、下からジグザグに行ったり来たりして段々高く上っていくんや。ここ、葉っぱが被ってないような所あるやろ。下からしゃがんで見ると、さっきのコケの傘の裏が白く暗い森の中でキラッと光って見えるんや。ここに居るよってコケの声が聞こえてくるともう、面白いように見つかってくる。コシアブラは、黄色い手の平広げたような葉をしとる。春の人気のある山菜なんやけど、この葉っぱが落ちてった頃にでるんや。やで、今はシバカブレの時期としては最後の方やね。ここは、全部ナラの木や。こういうひび割れてる樹木がそうや。キノコは「木の子」って書くように、その生態は木と凄く関係しとるんやな。キノコにも好きな木があるんや。シバカブレはコナラとかミズナラとかのドングリの生る木がある場所が好きなんや。おぉ！これは、ナラモタセ（ナラタケ）や。おぉムキタケや！たくさん出とる！キノコは、傘の上から見た特徴と傘の裏から見た特徴の両方覚えておかないとだめや。たいせつな判別基準になるからな。写真を撮るときは、傘の表も撮るし裏も撮る。いつもキノコガイドする時にみんなに覚えて貰いたいもんで、キノコの特徴を最低でも3つ以上考えて下さいと言うとる。例えばこのコケやが、軸が短いな。傘の裏の筋は一直線状になっとる。傘の裏のヒダは胞子を飛ばす所や。そして傘の表がスエードの皮みたいやな。もう一つは発生しとる場所。このコケやったら地面からじゃなくて、直接木から出とるやろ。だからこのコケは、シイタケと同じ仲間で木を腐らせて栄養にして成長するコケだなって事がわかる。直接地面から出ているコケっていうのもある。コケは大きく分けて木を腐らせる役目のコケと、木と一緒に生きるコケがある。その中でムキタケは木を最後には腐らせてまうコケなんや。シバカブレは、木と共生している。木から自分の作れない栄養を貰って木の作れないろいろな微量な栄養とかミネラルを木にあげている。なんでムキタケって言うかわかるか？皮がこうやって剥けるもんで「剥れ茸」って言う。今これ出たばっかやで、傘も綺麗な白い色してる。いい甘い匂いするでしょ。こういうときは、まだ傘も軟らかいんや。もうちょっとな、霜に何回かあたると表面が硬くなるんや。これなんか今一番良いな。ムキタケは、傘がわりと硬くてしっかりしているからカゴの中で暴れても大丈夫だけど、シメジは、柄と軸がちょっとした振動で壊れたり欠けたりするんやな。やで、コケが傷まんように笹とかシダなどを時々入れてクッション材を作るんやな。

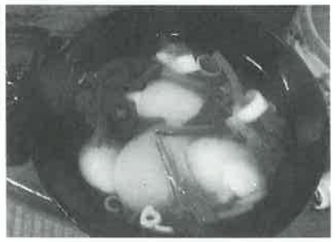
キノコの採り方はな、上下にクックックって揺すると軸がポロって外れるんやわ。大きいやつは指を回しながら左右にな。コケを商品として売るなら、割れたり欠けたりしたらあかんでな。慎重に採るんやぞ。こういうナラの木や広葉樹の倒木をよく見てみるとクリタケとか出てる可能性があるんや。コケがどういう所に生えるか分かると、山ん中無闇やたら歩かなくても見つけやすいんや。クリタケは、栗みたいな茶色しとる。このコケは木を腐らせるから木から直接で発生しとるんや。クリタケは味噌汁に入れると美味しいよ。晩酌のつまみを代表するキノコやな。コケの種類にもよるけど、2日か3日ぐらいの内に食べてしまった方がいいな。ぬめりのあるコケは傷みが早い。乾いとる軽いキノコはあまり傷まんで、3、4日でも大丈夫やけど、古くなるとこの傘の裏がな、黒くなっていくんやさ。

そいつはホコリタケの化けもんやな。このコケはちょっと変わっとってな、キノコの中に胞子がはいっとる。穴あけて叩いてみ。ホコリみたいな胞子が出てくるやろ。黒い胞子やろ。キノコは大きいときの形と小さいときの形が全然違うんや。その両方をちゃんと覚えるのも、キノコガイドのポイントとしてるんや。特徴的な形だけを覚えているだけでは、小さい時判別つかないでしょ。傘の開くキノコは、傘開く前と後じゃ全然形が変わるんや。今歩いている山は、つい最近まで薪にしたりとか、炭焼いたりとか利用されていた山や。この地域では各家に必ず農耕馬を飼っとったもんで、餌（草）を作る為に綺麗に山を刈り払ってきたんや。だから樹齢自体、何百年も経ってない若い木なんだ。山肌は草地で、尾根筋だけは、木を残してあったんやな。だから、風通しの良い日当たりの良い場所にシメジとか良く出た。山に手をかけることで、偶然美味しいキノコが発生するような環境を作ったんやな。今この森は段々自然に帰りつつあるんやけど、現在の環境がでかいキノコがなる環境なんやな。木の葉である程度日陰になる。あんまり乾燥してしまうと菌自体繁殖できんしな。シメジ類なんかは、手を加えた綺麗な山のほうが出るんや。マツタケもそう、松葉を綺麗にかき集めて山肌をピカピカにすると出てくるんや。それは人間が山を利用することによって、偶然マツタケが喜ぶ環境を作ったんやな。

金もらうガイドはな、怖いんやぜ。キノコが採れない時があるで。キノコ採りツアーというのは、僕はやらんのよ。採ることを目的にしとると、キノコ目的だけの山菜ハンターみたいなのばっか来るのよ。近頃の山菜採りの連中は山の規則を全然守らずに採り放題！キノコを育てようとしずにな。やで、問題は募集の仕方なんやろうな。例えば「キノコを通じて森を見ましょう！」とか謳う。そういう自然に触れ合う観察会をやろうって感じにしときゃあ、いいんやな。

柄の長さ20cm以上のキノコ

弱った木に生えるムキタケ



ムキタケの入ったお吸物

2. 名人の野望

キノコの世界に入ったのは、キノコ写真を撮ることがきっかけやった。いつかキノコの図鑑を作りたいなと思って写真を撮り貯めている。そやで、自然にキノコに詳しくなったんやな。写真を撮るとき心がけていることは、カメラアングルとか、キノコの色を忠実にフィルムに焼かせることやな。こういうのは実際目で見た色と写真でできあがった時の色と違うんや。やもんでなるべく違わないように撮るのが難しいんやな。太陽光の加減で、こういう茶色いのが黄色っぽく写る場合があるんや。実際は白い産毛状のものやでこういうときは、もっとこう撮り方変えて産毛が写るようにマクロで撮っていきゃこの質感が出るやろ。これがキノコの特徴だよっていうのを素人でも写真を見れば判るように。

3. キノコガイドの他に

山村留学っていうのは、普段川や山で遊んだりする環境の無い都会の子供たちを夏休みや冬休みに、一週間ぐらい私の所でお預かりして村の子供と同じような生活を体験してもらう。山村留学して良かったことはね、子供達には、こういった飛騨の雄大な自然の中でゆっくりのんびり遊ぶ環境っていうのは必要なんやなっていうのを改めて気づいたね。子供達は野原に行けば自然に走り出したくなるし、川を見れば飛び込みたくもなる。動物や植物見ると喜んで追っかけたりもする。もっともっと続けたいと思うね。特に回数を増やしてね。人数ももう少し多く預かりたいと思うんやけど、一人でやっている仕事やもんで人数には限りがある。子供たちを預かれるもっと大きな寮みたいのが出来れば、そこに大勢預かってね。今は平均して一週間、長い子で十日間ぐらいやな。一週間でも一ヶ月でも一緒に生活できるし、そういう中から一年でも二年でも、山の学校へ通いたいっていう人が現れれば良いなっと思って続けてる。

後は、春と秋の山のガイドね。丁度、新緑が芽吹いてきて、春の山菜が出てくる。フキノトウ・ワラビ・ゼンマイとかな。その後にタラの芽、コシアブラとか、食用になる木の芽。六月に入ると今度は竹の子やな。ネマガリタケといってとっても美味しいんや。そういう自然の中で口に出来るものを教えてあげる。まだ、畑で作物を収穫できんで、そういうものを山歩きながらガイドする。秋はキノコ、後は木の実とか…。人間はやっぱり森の恵みによって生かされてるんだよって事を、口に入るものを対象にして訴えているんやな。あとは大人向けの、二泊三日ぐらいの、田舎暮らしの体験をしたい人もみえるんで、一緒に農作業したりとか、自給自足的な生活の体験も年に何回かやってます。

他には自分も都会から移住してきたんで、体験者としてお話したりしとる。田舎で生活するにあたって不安なことやみんなあると思うんやけど、移住してから失敗したということにならないように色んな情報を伝えてあげたいと思って田舎暮らし相談を受けてます。一番多い相談内容は仕事の問題とか、地域との付き合いとかやな。空き家とか貸してくれる家はありますかとか、近くに病院はありますかとか、とにかく色んな質問があるよ。飛騨の場合は雪があるから厳しい冬の季節を乗り越えられるかとかね。短い滞在でもいいから1年を通して通ってもらうことにしている。良いことばっかじゃないよっていう事を自ら感じて欲しい。生活するには楽で楽しい事ばかりじゃないよっていう事を分かって貰えてるみたいですよ。

名人 石橋（いしばし） 智（さとし）さんのプロフィール

●生年月日：昭和43年8月8日生まれ
●職　業：建築家、インタープリター（自然案内人）

10年ほど前に母親の介護と子供の育児をしながら何が豊かで幸せな生活だろうと考えていた。お金や物にあふれる生活より家族の健康や絆が大切だと気づく。物質的に恵まれた便利な都会で生活するより、母親とか子供達の為に時間を使おうと思い奥飛騨で田舎暮らしを始め、そこで身の回りのものを作るのが仕事になり自給自足的な生活が始まり今の生活に至る。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　臼井征雄】